



大木工藝が香川に 初の活性炭工場

来年から蓄電池向け量産

「炭素」を使った新商品の開発に取り組む大木工藝（大津市）は、香川県さぬき市に同社初の多孔質活性炭製造工場「写真」を建設、平成26年1月から、電気自動車用バッテリーなどに使用される蓄電池用に量産を開始する。

関西大学や龍谷大学の協力を得て、総費用約1億4000万円を投じて完成させた。生産能力は月産1ト。

すでに京都の電子部品メーカー

向けの納入が決まっており、当面は月産500ト規模でスタートする。

生産する活性炭は、ペットボトルをリサイクルしてできるPET（ポリエチレンテレフタレート）を原料とし、マイクロ波により炭化する。

同社の大木武彦社長は「不純物を含まないPETを素材にすることで安定した品質を確保でき、長寿命。新工場建設で炭素事業を本格化させたい」と語る。今後、滋賀県での工場設置も計画している。